



ワックスアンダーコート Q&A

Q & A

1, ワックスアンダーコート（車体防錆剤）とシャーシブラックとの違いは？

ポイント：自己修復性の有無

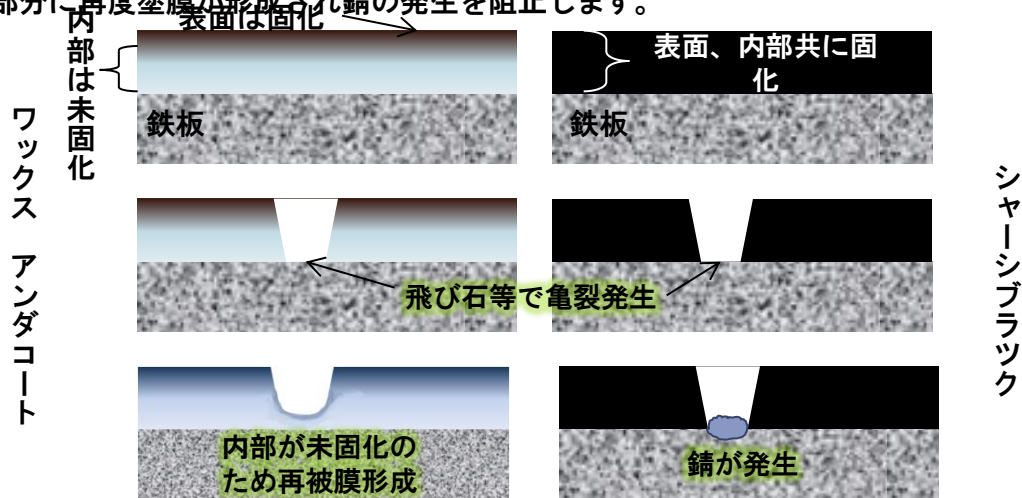
簡単に分けるとワックス アンダーコートは防錆剤でありとシャーシブラックは塗料です。

自己修復性がワックス アンダーコート（車体防錆剤）にはありますが、シャーシブラックは塗料ですから有しません。

自己修復性とは……

一般にはシャーシブラックは上下層まで完全に固化し、外部からの飛び石や経年劣化などにより塗膜に亀裂が生じた部分から錆が発生します。

ワックス アンダーコートは表面は固化しますが、内部は未固化な状態のため塗膜の亀裂部分に再度塗膜が形成され錆の発生を阻止します。



自己修復性能メカニズム

2, ワックスアンダーコート（車体防錆剤）とシャーシブラックの成分の違いは？

ポイント：防錆剤の有無

シャーシブラックの主成分は樹脂（アルキッド）ですが、ワックス アンダーコートは防錆剤と固形パラフィン（蠟）です。

ワックス アンダーコート	シャーシブラック（油性）
防錆剤	樹脂（アルキッド等）
パラフィン	石油溶剤
低臭気溶剤	

主成分比較

3, ワックス アンダーコートとシャ-シブラック処理個所の違いは？

ポイント：内部防錆性能の有無

シャ-シブラックは車両の床下への外部防錆としての使用が一般的です。ワックス アンダーコートは外部防錆としての床下やハブはもちろん、ドア戸袋内部、サイドシール、ボンネット、トランクルームなど中空部、フェンダ内側等の内部防錆として使用出来る車両フル防錆剤です。

内部防錆を可能にしたのが……

ワックス アンダーコートが浸透性、チキソ性と幅ひろい防錆力に優れているからです。

チキソ性……

静置状態では高粘度ですが、外部から力が掛ると低粘度化し流動性が生じる現象。ワックス アンダーコートはスプレーされた際は流動性浸透性に富み、塗布後は一気に高粘度化しタレ流れがおきません。

幅広い防錆力……

ワックス アンダーコートは一般的な防錆力だけでなく気化防錆力をも有し、被膜周辺を立体的に防錆します。

まとめ

ワックス アンダーコートとシャ-シブラックの比較表

	ワックス アンダーコート	シャ-シブラック（油性）
用途	防錆剤	塗料
自己修復性（有無）	有	無
防錆力（有無）	有	無
内部防錆性能（有無）	有	無
水置換性 ¹⁾ （有無）	有	無

1)水置換性とは……

処理箇所に水があっても、水と置き換わり被膜を形成出来る性能。作業性に優れいます。

ワックス アンダーコートとシャーシブラック防錆力比較



カッター替刃にそれぞれ試料塗布後、一昼夜乾燥後釘で塗面を引っ掻き、水に一昼夜浸漬後の発錆状況。

4, 乾燥時間は？

指触乾燥に1～3時間、最終乾燥に一週間かかります。
内部防錆箇所は直接異物等が接触しないので、乾燥時間を考慮する必要はありません。
床下防錆は冬場1時間乾燥、その他の季節は乾燥時間を考慮する必要はありません。
ハブ防錆も乾燥時間を考慮する必要はありません。

5, 持続期間は？

新車時からの内部防錆は5～8年間ですが、外部防錆部分は個々の車両の使用環境化により異なります。詳しくは担当営業にお問合せください。

6, 除錆処理の必要性は？

発錆箇所は除錆後に塗布をお勧めしますが、ワックス アンダコートは錆の上から塗布しても錆の進行を阻止します。

7, 処理個所以外の付着した場合の処理方法は？

最終乾燥する前にウエス等で拭き取ってください。

8, ボディー塗装面、プラスチック類、ゴム類への影響は？

全く問題はありません。作業中に付着した場合はウエス等で拭き取ってください。

9, マフラー高温部への対処は？

高温部には塗布しないでください。マフラー等高温部へは別売り耐熱スプレーをご使用ください。

10, 床下洗浄の必要性は？

泥汚れ等が激しい場合は事前に洗い流し、余分な水はエアブロー後に塗布してください。
ワックスアンダコートには水置換性がありますから、多少水分が残っていても構いません。

11, 安全性は？

P R T R対象物質、重金属類、発癌物質は使用せず、また低臭気溶剤を使用しており安全性に優れています。

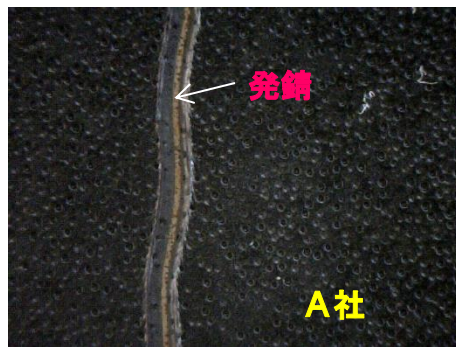
12, 他社の比較

車体防錆剤一般性状・性能

		ワックス アンダーコート	A社	備考
製品型式		エアゾール	エアゾール	
外観		光沢液体 ^{*)}	粘稠液体	^{*)} チキソ性液体
臭気		やや溶剤臭	石油有機剤臭	
粘度		1500cPs	1200cPs	
比重		0.8	0.8	20°C
引火点		40°C以上	40°C以上	
指触乾燥		約2時間	約2時間	膜厚50μ
耐食性	塩水噴霧試験 (1000時間)	発錆なし	データなし	
	複合サイクル試験 (CCT)	異常なし	データなし	
	耐融雪剤試験 (20日間)	発錆なし	発錆	5% CaCl ₂ 水溶液浸漬



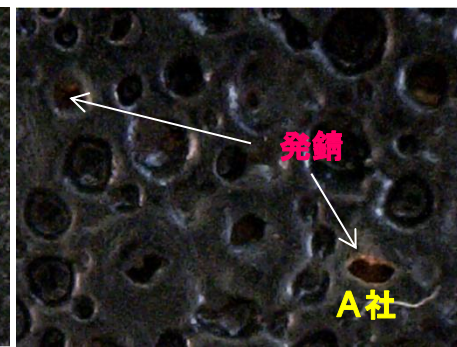
当社



A社



当社



A社

試験方法

試料を塗布し一昼夜乾燥後釘で塗面を引っ掻き、20日間5%CaCl₂水溶液に浸漬し発錆状況を確認。

試験結果

A社に発錆を確認。

試験方法

試料を塗布し一昼夜乾燥後、20日間5%CaCl₂水溶液に浸漬し発錆状況を確認。

試験結果

A社塗布面はチキソ性を低いため表面が粗く、未塗布箇所から発錆が確認された。